

港区教育委員会 様

学校名 港区立青山中学校
校長名 佐々木 希久子

令和8年度教育課程について（届）

このことについて、港区立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で品性、感性及び知性に富み、生涯を通じて主体的に学び続け、国際社会に貢献できる豊かな人間性の育成を目指した教育を推進する。

【自立】 自ら考え判断し行動できる人

【共生】 思いやりの心をもち協働できる人

【創造】 深く考え創造できる人

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

学校の教育目標を承け、「節度ある行動」「真剣な学習」を生徒目標として掲げ、以下の基本方針に則り、主体的に考え判断し行動することができる生徒の「生きる力」の育成を目指す。

ア 人権尊重の精神の下、障害の有無に関わりなく、自他の生命や互いの人格を尊重し、思い遣り、協力して物事を成し遂げようとする心、法やきまりの意義を大切にする心、TPOに応じた立ち居振る舞いを身に付けさせるために、教育活動全体を通じて人権及び道德教育を充実させ、豊かな心の育成を図る。

イ すべての教育活動において「多職種連携」を合言葉とし、全教職員で協働して取り組む。

ウ 「学校いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図るため「港区立青山中学校いじめ防止協議会」を設置し、学校、家庭、地域、関係諸機関が一体となって差別やいじめの根絶を図るためのいじめ防止推進事業を充実させる。

エ 基礎学力・活用力の向上・習得を目指し、分かりやすい授業を心がけ、生徒の知的好奇心を高め、主体的に学習に取り組む中で自己調整力を身に付けさせる。また各教科においてICT機器を活用した個や各集団に応じた指導の工夫・改善を行い、生徒の学びに向かう姿勢及び人間性を育む。

オ 数学科、英語科において習熟度別・少人数指導を充実させ、個々の生徒の習熟度に応じた学習到達度目標を設定し、確かな学力の確実な定着を図る。

カ 世界に羽ばたき、グローバルに活躍する生徒を育成するため、総合的な英語力を身に付け、世界の一員としての平和を希求する心、自己の確立、多様な価値観をもつ人々と協働しながら課題を解決していく創造力・論理的思考力、多文化共生の精神の涵養を目指した国際理解教育を充実させる。

キ 先の読めない、変化の激しい社会を生き抜く力を養うため、ICTを適切に活用した学習活動の充実を図り、発達の段階に応じたICT活用能力（情報モラルを含む）を育成する。

ク 地球規模で物事を考える視点を持ち、持続可能な社会の担い手を育成するため、各教科、特別の教科道德、総合的な学習及び特別活動においてSDGsに関連する学習を計画的に実施し、持続可能な社会の担い手としての資質・能力の育成を目指した環境教育を充実させる。

ケ 健康な体づくりとして基本的な生活習慣を確立させ、心身の健康の保持増進を図るために体力の向上と食育の充実を図り、豊かなスポーツライフを送るための資質・能力を育む健康・安全・食に関する教育の充実を図る。

コ 幼・小中一貫教育を推進し、地域の幼稚園、小学校、特別支援学校との連携を深め、教職員及び幼児・児童・生徒の交流を通して、慈愛の心を持ち、他者に優しくできる生徒の育成に努める。

サ 教員の働き方改革を推進し、教員が生徒と向き合う時間を十分に確保することを通して、教員と生徒相互の信頼関係を構築・確固とし、生徒一人一人に目を向けた学習指導や生活指導のさらなる充実を図る。

シ 教育環境を一層充実させるため学校運営協議会を設置し、学校教育と家庭や地域社会との相互連携を深め、地域行事や活動に「学校丸ごと」で積極的に参加するとともに、地域の文化・伝統や人材を教育活動に積極的に活用する。カリキュラム・マネジメントの充実を図るために教育課程の実施状況を適切に評価し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。

2 指導の重点

- (1) 各教科、特別の教科 道徳、特別活動、総合的な学習の時間、学校 2020 レガシー、環境教育、国際理解教育、特別支援教育、言語能力の育成、情報活用能力の育成

ア 各教科

- ① 単元指導計画を作成し、意図的・計画的な授業実施を図るとともに、生徒の「できた」「分かった」を大切にする ICT 機器を活用した授業・複線型授業・ユニバーサルデザインを活用した授業を通し、明確なねらいの提示・毎時間の振り返りを実践する中で指導と評価の一体化を図る。
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、個別最適な学びと協働的な学びの適切な場面転換を計画的に行い、生徒の基礎的・基本的な力を着実に身に付けさせるとともに、学びに向かう力・人間性の育成を図るよう不断の授業改善に取り組む。
- ③ GIGA スクール構想の実現を目指し、情報リテラシー・情報モラルを身に付けさせ、プログラミング的思考・論理的思考力を育む。
- ④ 数学科、英語科において「東京方式習熟度別ガイドライン」に基づいた少人数指導を実施し、個々の生徒の習熟の程度に応じた学習到達目標を設定し、学力の確実な定着を図る。
- ⑤ 理科・数学科において事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したりする活動を充実させ、具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図り、問題解決する活動の充実を図る。
- ⑥ 社会科を中心に法教育、主権者教育に取り組み、持続可能な社会を構成者としての自覚を高め、社会参画意識の醸成やよりよい社会の実現のために課題を主体的に解決しようとする能力を育成する。
- ⑦ 青山アカデミーにおける合同研究や教員の連携を強化し、学校運営協議会の活動をさらに活性化することにより地域の教育関係者や保護者が一体となって生徒を支援し、小中の連携強化を図る。
- ⑧ ICT 機器や自習ノートを活用した家庭学習を推奨するとともに、放課後学習教室を開催し、生徒個々の学習のつまずきに寄り添い、自学自習の機運を高め、基礎的・基本的事項を定着の徹底を図る。

イ 特別の教科 道徳

- ① 道徳教育推進教師を中心に校内推進体制を整え、道徳の時間を計画的に実施し、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、命を大切にするとともに、人間としての生き方についての考えを深める学習に取り組む。
- ② 「考え、議論する道徳」の実現を図り、生徒一人ひとりに道徳的感性、道徳的判断力及び実践力の育成を重視する。特に、自己評価と相互評価を組み合わせた評価を実践していくとともに、ポートフォリオやグループワーク等、多様な評価方法を取り入れ、豊かな心の涵養に繋げる。

ウ 特別活動

- ① 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間で育まれた資質・能力を生かしながら、自らより良い集団に育っていくことを希求し、実践していくよう、集団の一員としての役割を果たし達成感をもたせるような活動を行う。
- ② 自己管理・コミュニケーション能力の向上、チームワークと集団行動・リーダーシップの育成、意思決定力や問題解決力などの非認知能力の育成を目指し、ディスカバリー・メソッドに取り組む。
- ③ 自国を愛する心を育むため、儀式的行事において国旗・国歌に関する指導を実施する。

エ 総合的な学習の時間

- ① 各教科、特別の教科 道徳、特別活動を通して育まれた資質・能力を生かしながら、探究的に物事をとらえ、環境や平和等について深く考えたり、現代的な諸課題に取り組んだりする姿勢を養う。

オ 学校 2020 レガシー

- ① 特別活動の時間を中心に、学校における継続的な教育活動としてオリンピック、パラリンピックの招聘や生徒会活動等とおして「障害の理解」「豊かな国際感覚」「スポーツ志向」の育成に取り組み、多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる生徒の育成を図る。

カ 環境教育

- ① 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動において SDGs に関連する学習を計画的に実施するとともにビオトープを活用して環境の問題を理解し、課題を多面的・総合的に考える力や他者と協力する態度等を育成し、持続可能な社会の担い手としての資質・能力の育成を図る。

キ 国際理解教育

- ① 各教科及び特別活動等における創意ある探究的教育活動の取組を通して我が国の伝統及び文化についての知識・理解や考えを深めることで真の国際人としての資質・能力を育成する。
- ② 「多様性との共生」をテーマとし、海外修学旅行に向けて大使館交流、TGG 活用等を通して異文化理解を深め、言語能力及びコミュニケーション能力の向上を図り、国際理解教育の充実を図る。

ク 特別支援教育

- ① 特別支援教育コーディネーターを中心に校内特別支援教育委員会を定期開催するとともに、個々の生徒に関わる人員や諸機関との連携を密にし、多職種連携を大切にした「チーム学校」として、個々の能力や特性を伸ばすことができるよう特別支援教育の充実を図る。
- ② 交流及び共同学習を通し、日常的に障害の有無に関わらず、共に学び、共に学校生活を送りながら互いのよさを認める温かい人間関係を構築する力を備えた人間性の育成を目指す。

ケ 言語能力の育成

- ① 各教科及び特別の教科 道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの学校教育活動を通して、**言語環境を整えるとともに**、話し合い活動や議論する活動、レポートの作成等、学年の発達段階に応じた言語活動の充実を図り、**言語能力を育成する**。
- ② 毎日の朝読書等を通して読書活動の推進を図り、生徒の語彙数及び言語力、類推する力などを高めるとともに、読書習慣を身に付けさせ、読書の価値や楽しさを味わわせる。

コ 情報活用能力の育成

- ① すべての教科において、情報手段を適切に活用し情報の取捨選択、取得、整理・比較及び、発信・伝達、保存・共有等の学習活動を取り入れ、基本的な操作の習得や、情報リテラシー、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する 資質・能力等を育成する。

(2) 生活指導・進路指導、健康・安全・食に関する指導

ア 生活指導

- ① 全員担任制に基づいた一人も取りこぼさない学級経営の充実を図り、学校生活全体を通して教職員と生徒、生徒相互の豊かな人間関係を育み、思い遣りのある豊かな心をもつ生徒を育成する。
- ② 青山中学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期解決のため、毎月学校生活アンケートを実施するとともに、ふれあい月間等、迅速かつ組織的な取組を行う。**あわせて、年2回WEBQ Uを実施し、アセスメントシートによる分析を通じて個々の生徒の状況に光を当て、いじめの芽を見逃さないため、全教職員で共有・対応を図るための資料とする。**
- ③ 学校弁護士、赤坂警察、保護司、青山地区委員会、区子ども家庭支援センター、SC、SSW、PTA会長、校長、副校長、生活指導主任で構成した「いじめ防止対策委員会」を年2回実施するとともに、**いじめやいじめと疑われる事案発生時には、校長、副校長、生活指導主任、養護教諭、該当学年主任等を委員とした「いじめ校内委員会」を即日開催する。**
- ④ SCによる全員面接や毎月の学校生活アンケートの実施など組織的な教育相談体制の充実を図り、不登校の未然防止、早期解決に努めるとともに、登校支援委員会を毎週開催し、長期欠席や登校しぶりのある生徒の支援について、不登校巡回教員やSSW等と連携し、**組織的に対応していく。**

イ 進路指導（キャリア教育）

- ① 各教科等で身に付けた知識・技能を相互に関連付け、将来の夢をもたせ、主体的に自己の生き方や働くことについて選択できるよう、基礎的・汎用的な能力の育成に取り組む。
- ② キャリア・パスポートを活用し、学校生活を振り返る活動等を通して自己有用感を高めるとともに、自らの特性や能力について理解を深め、生涯にわたる自己実現を図ることのできる生徒を育成する。
- ③ 職場体験、職業講話等の社会体験活動や**高等学校と連携した体験授業や出前授業等**を通して、働く意義や学ぶ意義を知り、自己の個性を理解しながら、主体的に進路選択する能力及び態度を育てるとともに、豊かな人間性や社会性の育成を図る。

ウ 健康・安全・食に関する指導

- ① 心身の健康の保持増進のため、健康に関する基礎的な知識・理解及び身体能力の向上を図り、生涯を通して、主体的に、豊かなスポーツライフを送るための資質・能力の育成を図る。
- ② 安全指導、避難訓練、防災訓練、普通救命講習会等を通して、自ら危険を予測し、回避する能力を養うとともに、震災や火災、不審者への対応など体験的な訓練を実施する。あわせて、それらの活動を通して地域社会の構成員としての自覚をもち、自らに課された責任を果たす態度を育成する。
- ③ 「セーフティ教室」等、関係諸機関と連携し、健康や性に関する情報、薬物乱用防止等の学びの充実を図り、情報を正しく選択し、適切に行動できるようにする。また、「SNS学校ルール」に基づき、インターネット等の安全な使用を促し、「SNS家庭ルール」の策定を啓発する。
- ④ 食育全体計画に基づき、教科等横断的な視点から食育の推進を図る。さらに、栄養士と家庭科教員、食育担当教員との連携を図り、日頃の給食指導や家庭科の授業を通じ、食事を摂ることに関心をもたせ、食材や栄養価、我が国の食文化についての知識を得るように取り組む。